

# 健康ぷらざ

No.316

企画:日本医師会

# パーキンソン病

手足がふるえる、  
動作が遅くなる、  
少しずつしか歩けず、  
転びやすくなる。  
これが、その主な症状です。

診察を受けると、筋肉が固まって縮んでいることがわかります。

便秘になったり、匂いがわからなくなるなど、

運動面以外の症状も注目されはじめています。

中高年になって発症することが多く、

患者数は全国で15万人とされています。

難病に指定されていますが、最近は薬の進歩によって、

たとえこの病気にかかっても、

早めに治療を開始すれば、日常生活の制限を最小限に抑えて

暮らしていけるようになりました。

パーキンソン病も早期発見が大切。

リラックスしているときでも手がふるえるなどの症状がみられたら、

かかりつけの医師に相談してください。



動作が  
遅くなる  
(無動)



手足が  
ふるえる



少しずつしか歩けず、  
転びやすくなる  
(すくみ足)



早期発見  
が大切

指導: 順天堂大学医学部神経学教授 服部 信孝

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。